

チシマヒカゲノカズラ *Lycopodium alpinum* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更コード9 ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。高さは10 cm前後。匍匐性で、直立茎は斜上、3~4回又状に分岐する。腹面、背面の葉は何れも茎に圧着する。孢子嚢穂は小枝に頂生、無柄である。孢子葉は広卵形で鋭尖頭。タカネヒカゲノカズラに酷似するが、小枝がやや平ら、葉は枝に4列に並び腹葉と背葉で形がやや異なる。本種と一変種ミヤマヒカゲノカズラとの関係、異同については、なお検討が必要とのことである。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国北部、ロシア、欧州、北米に、国内では北海道、本州(中部地方以東)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯で、コケ類の生えている斜面や向陽の岩場に生育する。やや酸性の土壤に生ずると言われる。

4. 生育状況

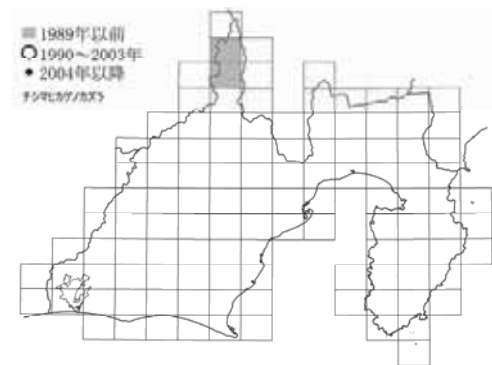
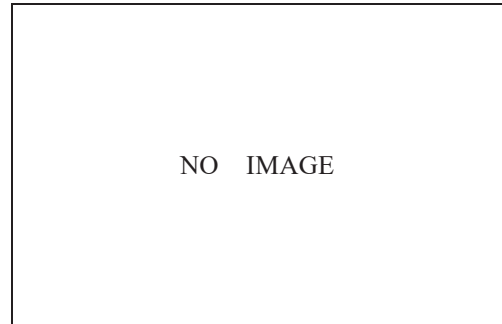
南アルプスの赤石岳や千枚岳の記録(80年ほど前)があるが、近年では全く生育が確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移などによる環境変化(54)、登山者による無意図的な踏みつけ(51)が脅威である。

6. 保護対策

生育地の綿密な再調査が必要。踏みつけによる影響を防ぐ対策が重要である。(細倉哲穂)



ナンカクラン *Huperzia fordii* (Baker) Dixit

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③⑤) 変更コード9 ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

樹木に着生する小~中型の常緑性シダ。小型のものは直立または斜上、長さ20~40 cmにもなるものは下垂する。茎は基部で又状に分岐、叢生する枝は数回又状に分岐する。葉は広披針形から長楕円形、中部が幅広で鋭頭、中肋は明瞭。孢子嚢は小枝につき、孢子嚢穂のまとまりはない。分芽繁殖もする。

2. 分布

国外では台湾、中国、ヒマラヤから東南アジアに、国内では本州(伊豆半島、紀伊半島)、四国、九州、琉球、伊豆諸島、小笠原に分布する。県内では伊豆(河津町)に分布し、分布北限。

3. 生育環境

暖地森林内、湿った岩上やコケ類のつく樹幹に着生する。

4. 生育状況

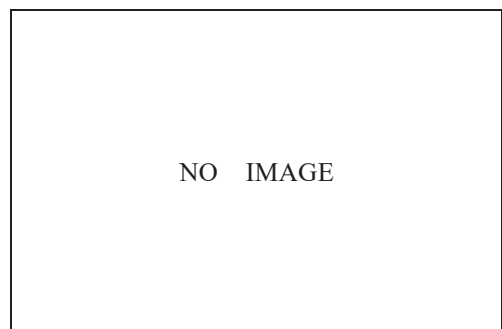
1960年代の河津町釜滝の記録のみで、近年は確認されていない。当地では絶滅しているおそれがある。

5. 減少の主要因と脅威

産地が限られ(61)、自然環境の遷移(54)と園芸採取(41)による減少絶滅が懸念される。

6. 保護対策

生育地及び類似環境の場所での再確認が必要である。生育が確認された場合には、生育環境に配慮した保護が必要となる。(細倉哲穂)



ヒモラン *Huperzia sieboldii* (Miq.) Holub

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)

ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae

: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑性シダ。茎は細く、全形は紐状である。基部で数回繰り返し分岐、枝が叢生するように見える。枝は疎に分岐、長さ20~50 cm。葉は、鱗片状で小さく、三角状卵形から卵形を呈し、茎に圧着してつき、下部は茎と合着。孢子嚢は小枝の葉腋につき、孢子嚢穂の部分はやや太くなる。

2. 分布

国外では日本、朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州(神奈川県から紀伊半島)、四国、九州、隠岐に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の山地の、やや陰湿な場所、空中湿度の高い岩壁や樹幹に生育する。

4. 生育状況

近年は浜松市北部を除き、目撃、採集情報は少なくなった。稀に強風後落下しているものが観察される程度。全国的に見ても、九州南部以外の産地では危急種である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採(11)、生育地の環境変化で減少している。園芸採取(41)も脅威である。

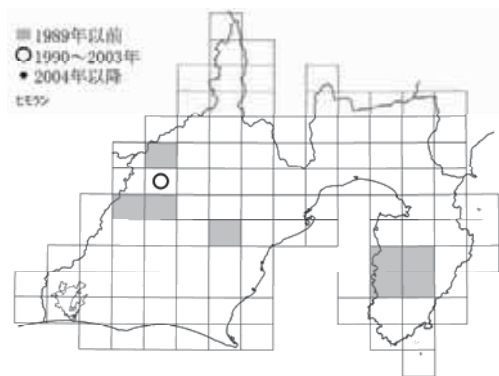
6. 保護対策

生育地の山林の樹木伐採、園芸採取の防止。

(細倉哲穂)



浜松市 2003年11月16日 宮崎一夫



ミヤマハナワラビ *Botrychium lanceolatum* (S. G. Gmel.) Angst.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

: 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ植物。根茎は短く、葉を1枚出す。葉は担葉体、栄養葉、孢子葉に分化する。担葉体は葉の長さの6~8割を占め、栄養葉は広卵形で2回羽状に深裂、羽片は披針形で深裂、裂片は長楕円形となる。孢子葉は栄養葉と同長くらいで円錐形、長さ1~6 cmほどで、2回羽状に分岐する。

2. 分布

国外ではロシア、中国東北部、シベリア、ヨーロッパ、カナダ、北米などに分布する。国内では、北海道、東北地方南部、中部地方などに分布する。県内では、東部(富士山)、中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の向陽の岩間、草原などに生育する。

4. 生育状況

産地、個体数ともにきわめて少ない。孢子によって繁殖するが生育適地は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

自然の遷移(54)と踏みつけ(51)による減少が懸念される。

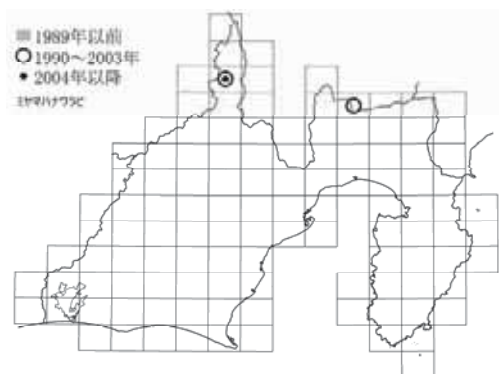
6. 保護対策

登山道などで踏みつけなど人為による減少を防ぐ必要がある。

(細倉哲穂・内藤宇彦)



静岡市 2004年8月10日 宮崎一夫



チャボハナヤスリ *Ophioglossum parvum* M. Nishida et Kurita

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

ハナヤスリ科 Ophioglossaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

小型の夏緑性シダ。高さ7 cm以下。葉を2~3枚叢生状につける。孢子嚢穂は長さ7~9 mm、葉脈に二次脈は発達しない。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)、九州、伊豆諸島に分布する。県内では西部に分布し、静岡県が北限自生地である。基準産地は掛川市である。

3. 生育環境

日当たりのよい草地や墓地の地上に生育する。大きな集団にはならない。

4. 生育状況

掛川市に生育する。産地は限られていて個体数も少ない。

5. 減少の主要因と脅威

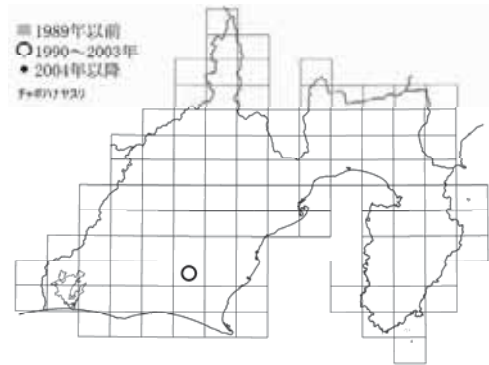
もともと希少な植物で産地は限られ(61)、生育地の破壊(16)で容易に絶滅の危険がある。小型で目立たないので踏みつけの心配がある(51)。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、その生育環境の維持管理に努める必要がある。(内藤宇佐彦)



掛川市 2002年10月11日 杉野孝雄



オニゼンマイ *Osmunda claytoniana* L.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード9

ゼンマイ科 Osmundaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

大型の夏緑性シダ。ヤマドリゼンマイに似るが、葉身の二形性は部分的で下方の2~5対の羽片が孢子嚢群をつける。また、孢子嚢をつけない羽片は白緑色で線状披針形、裂片は円頭で全縁である。孢子嚢をつける羽片は、つける羽片の1/3の長さ。孢子が飛んだあとは黒褐色となり、やがて枯れ落ちる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤ、ロシア東部、北アメリカなどに、国内では本州(東北地方南部、関東地方北部、中部地方)に分布する。県内では東部(御殿場市)に分布する。ここは分布南限地である。

3. 生育環境

林内の向陽の原野、湿地に生じ、群生することが多い。

4. 生育状況

県内では御殿場市印野土場のみ記録がある。近年の生育は確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

本来の分布域の南に、偶発的に生じたものと思われる(71)。遷移の進行による生育地の環境変化(54)が懸念される。

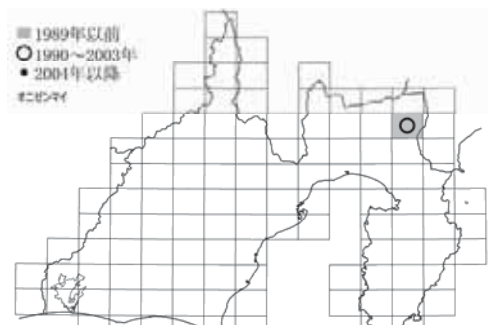
6. 保護対策

生育地の再確認が必要である。生育地の再確認がなされた場合には、生育環境に配慮した保護対策が必要である。

(細倉哲穂)



御殿場市 1994年7月24日 細倉哲穂



スジヒトツバ *Cheiropleuria integrifolia* (D. C. Eaton ex Hook.) M. Kato, Y. Yatabe, Sahashi et N. Murak.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類(CR) (要件-①②③) 変更コード9 ヤブレガサウラボシ科 Dipteridaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小～中型の常緑性シダ。二形葉で、栄養葉は単葉、先が二又することがある。葉面に見られる3～4脈が顕著である。孢子葉の葉身は線状披針形、長さ10～25 cm、やや厚くて主脈が1本はしるだけのことが多い。栄養葉の葉身はやや硬くて広卵形、基部は円形、先端は鋭尖頭、あるいは又状分岐、凹部の広い2裂片を作る。

2. 分布

国外では中国南部、インドシナからニューギニアまで、国内では本州（静岡県、紀伊半島）四国（南部）、九州（西・南部）、琉球、伊豆諸島に分布する。県内では西部（掛川市）に分布する。

3. 生育環境

比較的乾いた山地谷間の斜面の林下の地上、岩上から渓谷のやや湿度の高い崖地の岩上、斜面などに生ずる。

4. 生育状況

掛川市小笠山の谷間の岩壁に着生、群落を作って生育している。本県では唯一の生育地である。

5. 減少の主要因と脅威

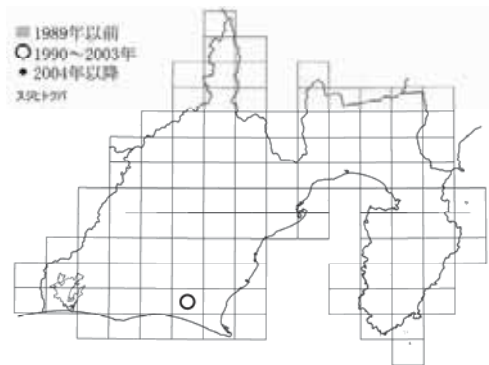
山林伐採などによる環境変化(11)が脅威である。

6. 保護対策

自生地の環境保全を持続させる。(細倉哲穂)



掛川市 1998年11月29日 宮崎一夫



デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類(CR) (要件-①②⑤) 変更コード9 デンジソウ科 Marsileaceae
 [2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

水生の夏緑性シダ。根茎は細く長く横走、小葉は4枚、クローバーのように4枚が田の字形に並ぶ。葉柄は10～15 cmで、根茎を伸ばして群落を作る。孢子嚢果は、葉柄の基部から少し上がったところから短い枝が出て、それに1～3個つく。

2. 分布

国外ではヨーロッパ、アメリカ、朝鮮半島、中国、ロシア、インドシナなどに、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では各地に分布する。

3. 生育環境

低地の水田、池沼、湿地などにしばしば群生する。

4. 生育状況

かつては、全県でごくふつうに知られたが、近年はほとんど確認されなくなっている。

5. 減少の主要因と脅威

水田の喪失(15)、除草剤の使用(32)、低湿地の開発(15)などが要因である。

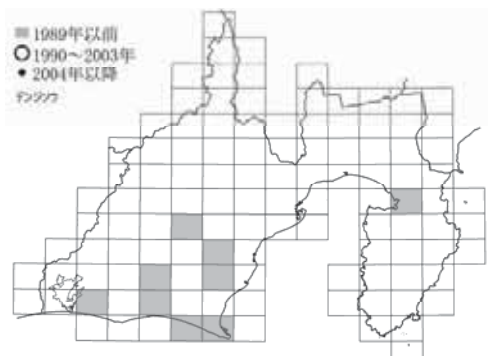
6. 保護対策

残存する本種生育地の確認が急務の課題である。生育が確認された場合には、区域を限定して、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(細倉哲穂)



群馬県(栽培) 2013年6月29日 西口紀雄



ヤマソテツ *Plagiogyria matsumureana* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①、②) 変更コード9 キジノオシダ科 Plagiogyriaceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

夏緑性シダ。葉は二形性で、栄養葉は広がってつき、葉身は大きいものでは70 cmほど、羽状に全裂、羽片の縁縁には重鋸歯がある。孢子葉は栄養葉より高く伸びる。

2. 分布

国外ではロシア東部に、国内では日本海側に多く、北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

深山の山林、ブナ林などの林下に生じ、しばしば群生する。

4. 生育状況

浜松市の北部、旧水窪町や旧春野町などに生育する。内帯日本海側のブナ林などでは群生するが、県内では個体数は少なく、林内に点在する。

5. 減少の主要因と脅威

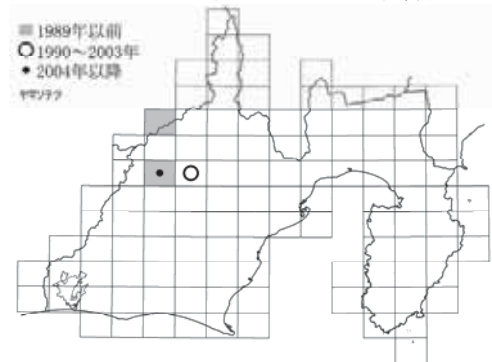
生育地の山林伐採など(11)による、生育環境の変化による絶滅が懸念される。

6. 保護対策

山林伐採など環境の悪化による影響を防ぐ必要がある。
(細倉哲穂)



浜松市 2009年8月6日 細倉哲穂



サイゴクホングウシダ *Osmolindsaea japonica* (Baker) Lehtonen et Christenh.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A (CR) (要件①) : 変更コード1 ホングウシダ科 Alismataceae
[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉長4~12 cm。ホングウシダに似るが、それより小さく、側羽片は3~10対ぐらいと少ない。羽片の孢子囊群は、切れることなく連続、辺縁に沿って長く伸びる。また葉身の先端は、頂羽片がはっきりしないホングウシダと異なり、倒三角形の頂羽片を作る。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国に、国内では本州(静岡県、紀伊半島)、四国、九州、沖縄、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆(河津町)に分布する。分布の北限地である。

3. 生育環境

暖地の山地、山中の溪流近くの水の当たるような岩上にコケ類とともに生ずる。

4. 生育状況

今までのところ河津町のみで生育が知られている。河川沿いに小規模な群落知られるが、個体数はきわめて少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地は局限され(61)、山林伐採(11)、河川改修(13)、道路拡幅(24)などが脅威である。

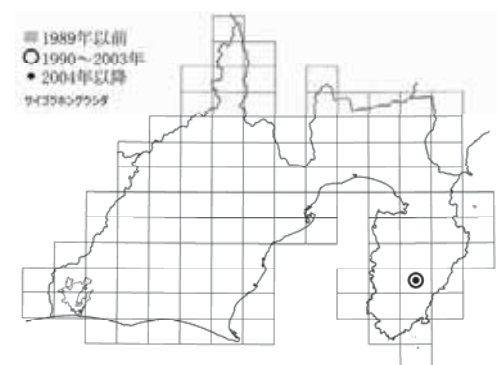
6. 保護対策

生育地山林の伐採、河川の改修、拡幅工事などによる環境変化を防ぎたい。不用意な開発による消失を防ぎたい。

(細倉哲穂)



河津町 2007年2月4日 杉野孝雄



キタダケデング *Woodsia subcordata* Turcz.

(=ヒメデング)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

イワデング科 Woodsiaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

高山性の夏緑性シダ。葉は長さ 15 cm ほどに達し、根茎は直立状を呈する。一見して、同属イワデングの趣きがあるが、羽片は中～浅裂、葉柄の関節は、葉柄の半分からやや上の所にある。基部にやや密な鱗片があり、根茎、葉柄基部の鱗片は、卵状披針形から披針形を呈する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部に、国内では北海道、本州（中部地方南アルプスと八ヶ岳）の高山に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩の割れ目などに、きわめて稀に生ずる。

4. 生育状況

近年生育が確認されておらず、生育環境の悪化、その他なんらかの理由で、県内では絶滅している可能性があることも懸念される。

5. 減少の主要因と脅威

岩場の岩壁崩落など生育環境変化(55)、登山者の増加(51)による絶滅が危惧される。

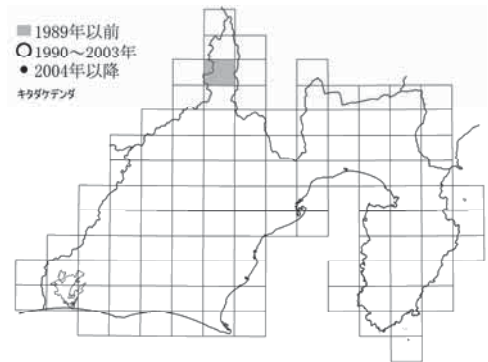
6. 保護対策

生育地の再確認が急務である。早急な保護対策、登山道の指定などの対策により、絶滅回避をする必要がある。

(細倉哲穂)



山梨県 2017年9月3日 室伏幸一



スルガイノデ *Polystichum shizuokaense* Nakaike

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

大型の常緑性シダ。アスカイノデの変種説もある。葉の長さ 80cmほどまで。葉柄上部の鱗片はやや幅広く、孢子嚢群は小羽片の辺縁寄りにつくのが特徴である。アスカイノデの場合、それは、小羽片の中肋と辺の中間につく。

2. 分布

日本固有種で、産地は静岡県の東部（裾野市須山など）のみである。基準産地も同地域で、和名も当地方の旧国名（駿河）に基づくものである。

3. 生育環境

山地の林内、やや陰湿な場所に多く生育する。イノデ類は人工林下を好む傾向があり、本種もその例に洩れない。

4. 生育状況

静岡県東部の裾野市（須山）や御殿場市（印野、仁杉）などに生育の確認があるが、産地は少なく局限され、個体数もきわめて少ない。

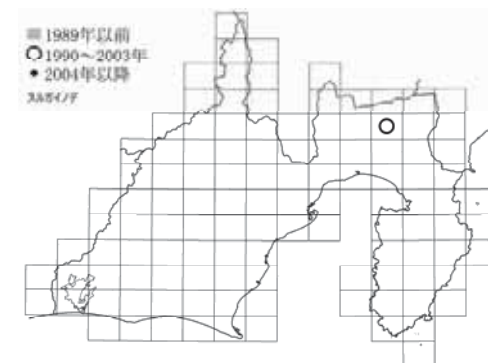
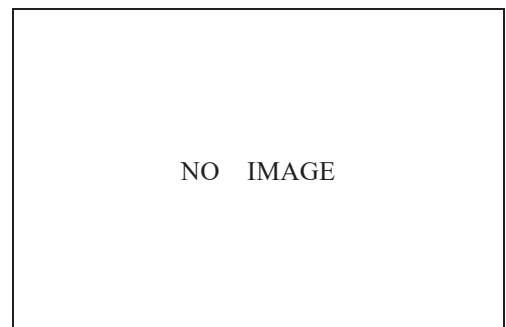
5. 減少の主要因と脅威

産地は局限され（61）、樹木の伐採などによる山林の開発、破壊（11）などが脅威である。

6. 保護対策

山林伐採による環境変化で生じる絶滅を防ぐ対策が必要である。

(細倉哲穂)



シムライノデ *Polystichum shimurae* Sa. Kurata ex Seriz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 10

オシダ科 Dryopteridaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅 (EX) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

中～大型の常緑性シダ。根茎は短く、斜上し塊状。葉柄には、密に鱗片をつける。下部の鱗片は広披針形、暗赤褐色で黒褐色のものが混じる。葉面、くすんだ緑色で光沢があり、カタイノデに似る。小羽片の先端が刺状になること、孢子嚢群の包膜辺縁の著しい欠刻があることが特徴である。和名、学名は、静岡県出身の志村義雄氏に献名された。

2. 分布

国外では中国の浙江省にもこれに当たる型が記録されているという。国内では本州（関東地方、静岡県）に、県内では東部（御殿場）に分布する。

3. 生育環境

低地の山林の林床、陰湿な場所の地面上に生ずる。

4. 生育状況

全国的にも生息地が局限され、個体数もきわめて少ない。本県唯一の産地は、一時水路の造成工事で改変され、2004年版レッドデータブックでは絶滅種とされたが、その後、生育が再確認され、絶滅種ではなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

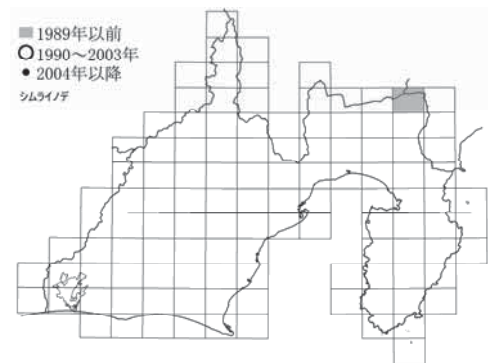
産地に限られ（61）、山林の伐採（11）、周辺水路の工事（13）などで、絶滅してしまう危険性がある。

6. 保護対策

山林伐採や土地の改変など環境の悪化による影響を防ぐ必要がある。（細倉哲穂）



御殿場市 2003年12月21日 杉野孝雄



キレハオオクボシダ *Tomophyllum sakaguchianum* (Koidz.) B. S. Paris

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。葉を数枚叢生し、葉身は線状披針形から線形、長さは4～8 cm、羽状にほぼ全裂する。側裂片は卵状長楕円形、鈍頭から鋭頭で鈍鋸歯がある。両面に約1.5 mmの毛が疎に生える。孢子嚢群は側脈に背生、円形で裸出する。オオクボシダに若干似るが、葉身幅広く、羽片は浅～中裂、孢子嚢群は羽片中に3個前後つく。

2. 分布

日本固有種で、本州（秩父地方、山梨県、長野県、静岡県、紀伊半島）、九州（五家荘）に分布する。県内では伊豆（伊豆市）に分布する。

3. 生育環境

山地の深い森林中の樹幹や岩上に生育する。

4. 生育状況

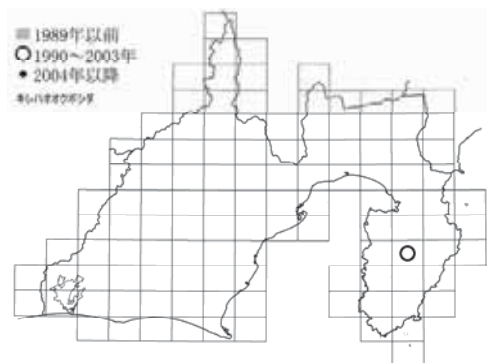
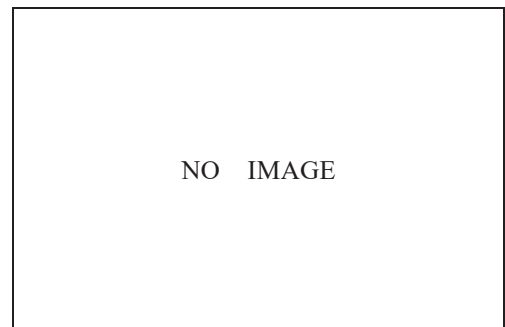
産地も局限され、個体数もごく少ない。

5. 減少の主要因と脅威

産地に限られ（61）、生育地付近の山林伐採や（11）、周辺河川溪谷の開発（13）などによる絶滅が懸念されている。

6. 保護対策

現に生育の知られている自生地の環境保全は当然のことながら、新たに産地が確認された場合には、生育環境に配慮した保護を図る必要がある。（細倉哲穂）



ヒロハヒメウラボシ *Oreogrammitis nipponica* (Tagawa et K. Iwats.) B. S. Parris

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

ウラボシ科 Polypodiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR)]

1. 種の解説

小型の常緑性シダ。根茎は短く這う。葉は線状披針形で長さ2~5 cm、葉脈は単生か1回分岐し、葉の表面に2 mmほどの赤褐色の毛がある。孢子嚢群は中肋寄りに並び、円形から長楕円形で、成熟すると隣接するものと連なることがある。

2. 分布

日本固有種で、本州（伊豆半島以西）、四国、九州、屋久島、伊豆諸島に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の川沿いの岩上や樹幹上に、コケに埋まるように生育する。

4. 生育状況

河津町と春野町の記録がある。近年は生育が確認されていない。

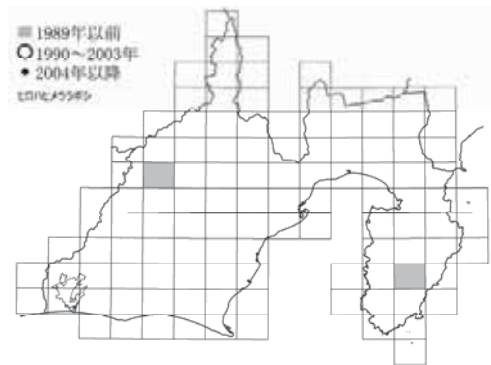
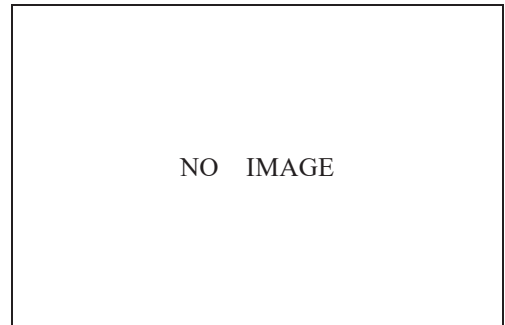
5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）や河川開発（13）による、空中湿度の低下などが絶滅の原因になる。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



オドリコテンナンショウ *Arisaema aprile* J. Murata

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~40 cm。偽茎はやや短い。葉は2個で、小葉5個が鳥足状につき小葉間の葉軸はほとんど発達しない。花期は4~5月。花序は葉よりやや早く開く。仏炎苞は緑色。花序付属体は棒状で淡色。偽茎の開口部が襟状に開出する。天城峠で発見されたため「伊豆の踊子」にちなんで名づけられた。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県、神奈川県）に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

温帯の落葉樹林の地上に生育する。

4. 生育状況

天城山と西天城に生育する。産地は限られていて個体数は少ない。全国的に産地の限られている植物である。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採（11）、林道工事（24）などによる生育地の消失で絶滅のおそれがある。

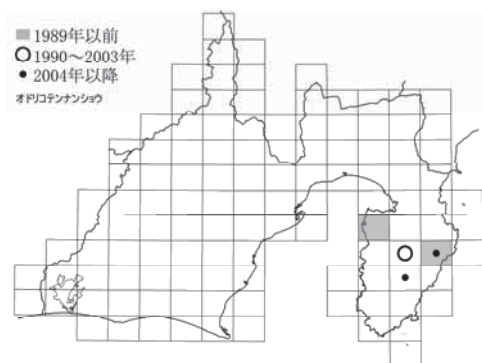
6. 保護対策

種の保存法に基づく「特定第一種国内希少野生動植物種」。伐採や工事などでは事前調査と対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



伊豆市 2011年4月29日 内藤宇佐彦



アマギテンナンショウ *Arisaema kuratae* Seriz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-②③) 変更なし

サトイモ科 Araceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。葉は1個ときに2個で、葉柄は偽茎よりはるかに長く、葉身は鳥足状に分裂する。小葉間には葉軸がやや発達する。小葉は5~7枚。花期は4~5月。花序柄は葉柄より短く、仏炎苞は紫褐色または緑色。花序付属体は太棒状で白色または淡緑色。

2. 分布

日本固有種。伊豆半島固有であり、主に天城山の東南部に分布している。

3. 生育環境

暖帯の林地に生育する。

4. 生育状況

個体数は多くはないが、前回(2004年)調査時からほとんど変化はない。シカの嗜好性植物であるが、餌になる植物減少から、食害にあっている個体も見られる。

5. 減少の主要因と脅威

園芸用採取(41)とシカによる食害(52-1)が脅威である。

6. 保護対策

種の保存法に基づく特定第一種国内希少野生動植物種。シカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



東伊豆町 2014年5月4日 湯浅保雄



マルバオモダカ *Caldesia parnassilifolia* (Bassi. ex L.) Parl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①) 変更コード1

オモダカ科 Alismataceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉性から抽水性、または浮葉~抽水性の一年草。成葉は水深に応じて葉柄が1 mほどまで伸びる。葉身はほぼ円形で、長さ5~15 cmほど。花期は7~9月。花茎を水上に出し、複総状花序を作り、白色の花をつける。花は両生で萼片3枚長さ3 mm、花弁3枚長さ4 mm、雄蕊は6本。

2. 分布

国外ではユーラシア大陸、アフリカ大陸、オーストラリア大陸の温帯~熱帯域に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

湖沼、ため池、水田、水路などに生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)によれば、かつては生育地や個体数は少ないが、県内各地に分布していた。しかし、2004年度版RDB調査でも、今回の調査でもその生育は確認されていない。

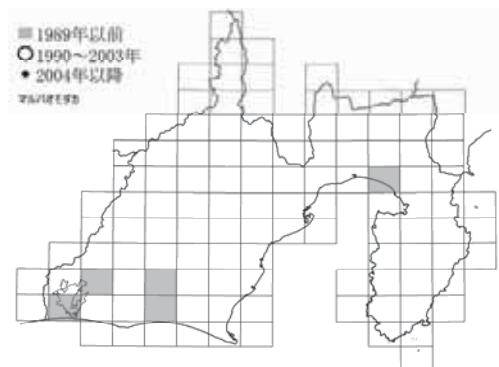
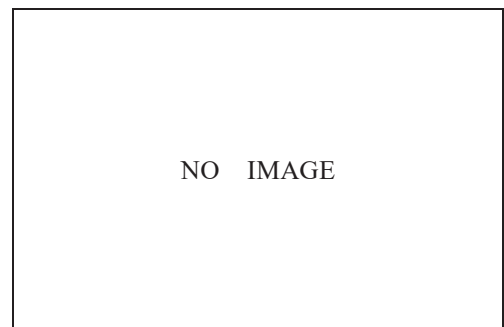
5. 減少の主要因と脅威

池沼、湿地の開発(12、15)と植生遷移(54)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育に適した環境の造成と保全を行う。

(湯浅保雄)



シバナ *Triglochin asiatica* (Kitag.) A. et D. Löve

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 6, 18

シバナ科 Juncaginaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~40 cm。葉は夏緑性で根生し線形で長さ 10~40 cm、肉質で厚く断面は三日月形。花期は 6~8 月。花茎は直立して花は淡緑色で花茎の上部に総状花序を作る。花柄は長さ 1.5 mm。花被片は 6 個。心皮は 6 個。

2. 分布

国外では北半球の温帯に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部に分布する。

3. 生育環境

河口や入り江の潮間帯で、潮の干満が穏やかな塩性湿地に生育する。

4. 生育状況

浜名湖など過去の記録地は周辺が護岸されている。狭い範囲で塩性湿地が残っているが、水質は汚染されていて再生できる環境ではない。

5. 減少の主要因と脅威

河口や湾内の護岸や埋め立てなどの海岸の開発行為 (14) が主要因である。水質汚染 (31) も脅威である。

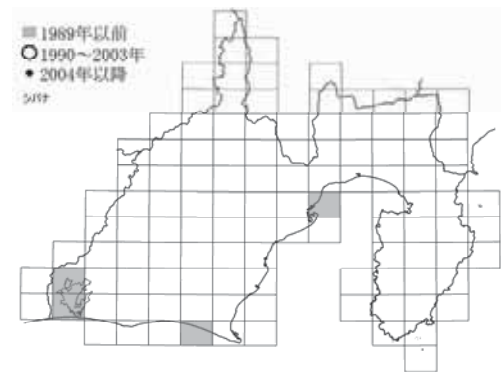
6. 保護対策

生育していた記録がある潜在的な生育地を保全する。今後とも注意して探索する必要がある。

(宮崎一夫)



浜松市(植栽) 2001年10月8日 宮崎一夫



タヌキノシヨクダイ *Thismia abei* (Akasawa) Hatus.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

タヌキノシヨクダイ科 Thismiaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。根茎は糸状、長く這って分枝し、節から花茎が立つ。花茎は長さ 1~4 mm。葉は少数で鱗片状。花期は 6~7 月。花は花茎の頂に 1 個つく。花被は白色。外花被片 3 個、内花被片 3 個。内花被片は長く伸長し先で合着して、花冠の上部に 3 個の窓を持つ空洞を作り、独特な形態を作っている。雄蕊は 6 個。花柱は 1 個。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県)、四国、九州、伊豆諸島 (神津島) に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

3. 生育環境

照葉樹林下の落葉の下に生える。

4. 生育状況

県内では伊東市、旧引佐町で確認された。県内の照葉樹林内には広く分布するものと思われる。

5. 減少の主要因と脅威

特別に探さねば見つけることのできない植物なので、その増減は簡単には判断できないが、照葉樹林の伐採 (11) は生育環境を破壊するものと推察される。

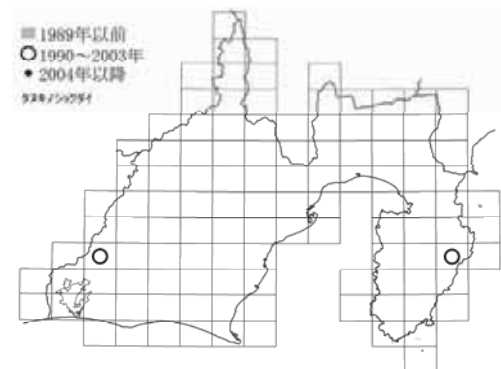
6. 保護対策

生育地が見つかったら、踏みつけを防ぐために立ち入りを制限すべきである。

(湯浅保雄)



伊東市 1995年7月9日 加藤 徹



ヒロハノアマナ *Amana erythronioides* (Baker) D. Y. Tan et D. Y. Hong

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③) 変更コード 7, 18

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~20 cm。地中深くに卵形の鱗茎がある。葉は 2 個あり広線形で長さ 15~20 cm、幅 7~15 mm、上面の中央に沿って広い白条がある。花期は 3~4 月。苞葉は線状披針形でふつうは 3 個つく。長い茎の先に 1 花をつける。花は晴天時に開く。花被片 6 個は長楕円形で長さ 18~24 mm、基部が緑黄色でわずかに淡赤褐色の筋がはいり白色。近似種のアマナは苞が 2 個で葉の幅が 5~10 mm で白条がない。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方から近畿地方）、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵や低山の落葉樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は局限していて、株数もきわめて少ない。開花すると採取され、なおかつタケが侵入してきて生育の圧力となり絶滅のおそれがある。近年は株数が激減している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

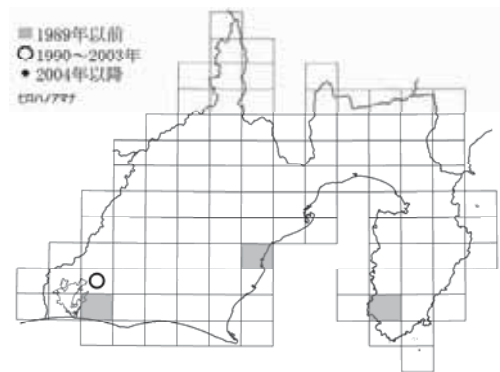
6. 保護対策

行政による生育地の保護管理が望まれる。情報の公開には慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年3月26日 宮崎一夫



ジンリョウユリ *Lilium abeanum* Honda

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③⑤) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。茎は細く径 3 mm 程度で高さ 20~60 cm。葉は披針形で長さ 5~12 cm、幅 0.6~1.4 cm、まばらに互生する。葉縁は白く隈取ることが多い。花期は 5~6 月。茎頂に長さ 6~8 cm の花を 1~3 個つける。花はロート状で淡桃~淡紅色、または濃紅色で、花被片の基部の色が濃くなっている。類似のササユリの花は長さ 10~15 cm と大きい。県内のものは、花が白色でカワネユリと称されている。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県）、四国に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁。基準産地の徳島県神領では蛇紋岩地に生育している。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、旧川根町の記録があるが、前回 2004 年調査でも、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

植生の遷移 (54) と園芸採取 (41) が減少の主要因である。

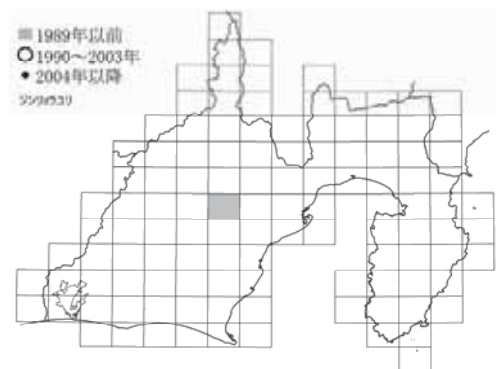
6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護を行いたい。

(湯浅保雄)



© PIXTA



スルガジョウロウホトトギス *Tricyrtis ishiiana* (Kitag. et T. Koyama) Ohwi et Okuyama var. *surugensis* T. Yamaz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ユリ科 Liliaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。サガミジョウロウホトトギスの変種になっており、地下茎を伸ばして繁殖する性質が顕著である。花期は8～9月。茎頂に1～3個の黄色い花をつける。茎、葉ともに無毛である。静岡県、山梨県、長野県の3県にわたり、キイジョウロウホトトギスによく似たタイプのものが見られる。

2. 分布

日本固有変種で、本州（静岡県、山梨県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

沢筋の空中湿度の高い岩壁に生育する。場所によっては一枚岩の表面についたコケの中に生育する。

4. 生育状況

人目に触れない場所のものは、おおむね生育は旺盛であるが、天候の影響をかなり受けている。

5. 減少の主要因と脅威

マニアによる採取、業者の盗掘による被害が多く、山採りにより壊滅的な被害が発生する(41)。

6. 保護対策

種の保存法に基づく特定第一種国内希少野生動植物種。警察官の常駐など、徹底した取り締まりの必要な時期にきている。(西口紀雄)



富士宮市 2010年9月21日 西口紀雄



イワチドリ *Amitostigma keiskei* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Schltr.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード6

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ7～13 cm。塊根は紡錘形。葉は1枚あり長楕円形で長さ3～7 cm、基部は茎を抱く。花期は5月。花は淡紅紫色で数個つける。3萼片と側花弁が兜状になる。唇弁は長さ1 cm前後で3深裂して、中裂片はさらに2浅裂する。距は長さ1.5～2.5 mm。近似種のヒナランは唇弁の中裂片が2裂しない。

2. 分布

日本固有種で、本州（中部地方、近畿地方）、四国、伊豆諸島に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の河岸で岩壁のやや日陰の湿った草地に生育する。

4. 生育状況

生育に適した環境は残っているが、株数がきわめて少なくなった。採取が困難な位置にのみ生育している危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取(41)が主要因である。河岸の改修(13)も脅威である。

6. 保護対策

自生地の行政的な保護管理が必要である。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



浜松市 1999年5月29日 宮崎一夫



ミスズラン *Androcorys pusillus* (Ohwi et Fukuy.) Masam.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。花茎の高さは8~15 cm。葉は1個で倒披針状楕円形、長さ2~3 cm、幅0.7~1 cm、基部は細くなって葉柄状になる。花期は6~7月。淡緑色の花を数個まばらにつける。背萼片と側花弁は兜状になる。唇弁は三角状舌形。側萼片は長楕円形。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾に、国内では本州（東北地方から中部地方）に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の針葉樹林の林床。

4. 生育状況

1976年に富士山で、2006年に南アルプスで確認されているが、その後の確認記録はない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採 (11) や林道開設 (24) による生育環境の消失が減少の主要因である。

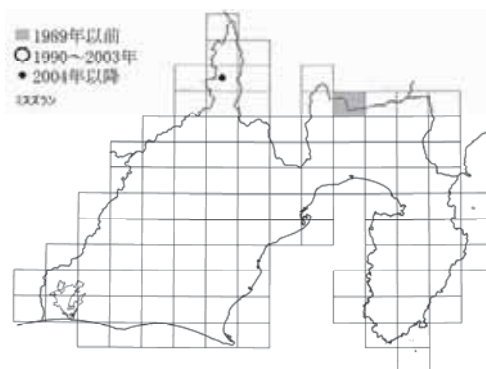
6. 保護対策

冷温帯での森林伐採や道路建設は極力行わないこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2006年7月22日 加藤 徹



キノエビネ *Calanthe alpina* Hook. f. ex Lindl.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~30 cm。球茎は数珠状に連なる。葉は倒卵状狭長楕円形でやや波打ち、長さ15~30 cm。花期は6~7月。花茎の上部に花を数個つけやや下向きに開き淡紫紅色。唇弁は赤色の小斑点があり、3裂しないで巻いて半円形で先の縁は櫛状に細裂する。距は長さ20~25 mm、後方にまっすぐ伸びる。近似種のキンセイランは唇弁が3裂する。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（東北地方から中部地方）、四国に分布する。県内では伊豆を除く各地に分布する。

3. 生育環境

温帯から亜高山帯で深山の沢沿いなどの、苔むす地上や倒木上に生育する。

4. 生育状況

今回の調査では1ヶ所で確認されたのみである。記録地は多くあるが産量が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

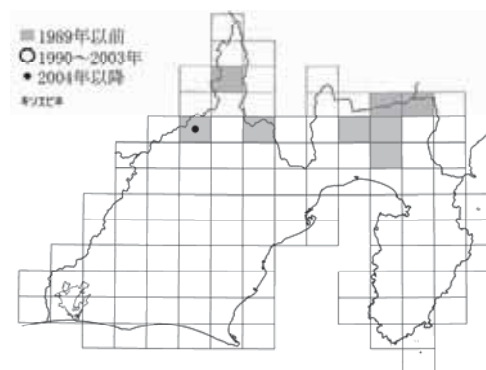
6. 保護対策

生育の記録がある潜在的な自生地を保全する。今後も継続して探索する必要がある。

(宮崎一夫)



浜松市 2005年7月8日 加藤 徹



キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③) 変更コード 6

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。球茎は球形で数珠状に連なる。葉は 3~5 個つき広披針形で長さ 15~30 cm。花期は 6~7 月。花茎の上部に短毛があり、黄色の花を 5~12 個まばらにつける。苞は披針形で長さ 1~2 cm。萼片は広披針形で長さ 1.5~2 cm。側花弁は狭披針形。唇弁は基部より急に広がって、3 裂して中裂片に 3 条の襞がある。近似種のキエビネは花が大きく密につける。

2. 分布

国外ではチベットに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では中部 (南アルプス) と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地のモミ、ツガ類の常緑針葉樹林下で腐植土が堆積した砂礫地に生育する。

4. 生育状況

産地も株も点在する。産地も産量も減少した。

5. 減少の主要因と脅威

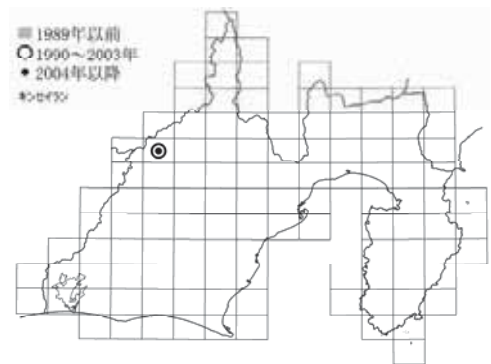
園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) や植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

生育地の保全と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。
(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 1993年6月27日 宮崎一夫



キエビネ *Calanthe striata* R. Br.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②③) 変更コード 6, 18

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。葉は広楕円形で長さ 30~60 cm、幅 5~15 cm、やや光沢がある。花期は 4~5 月。花茎は直立し、6~15 個の花をつける。花は純黄色でエビネより大きい。萼は長さ 25~35 mm。側花弁は長さ 20~30 mm。唇弁は長さ 20~25 mm、3 中裂して中裂片に 3~5 の襞状の隆起がある。距は長さ 5 mm。

2. 分布

国外では台湾、韓国、中国に、国内では本州 (中部以西)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

暖温帯の常緑広葉樹林やスギ林などの林床に生育する。

4. 生育状況

近年の確認はなく、生育状況は不明である。1900 年代後半に引佐町の記録がある。

5. 減少の主要因と脅威

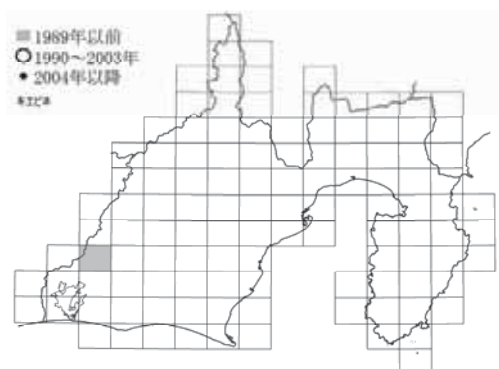
園芸採取 (41) が最たる要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

6. 保護対策

自生産地が確認された場合は園芸採取が危惧されるので、情報の公開は慎重な配慮が必要である。
(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
岐阜県(植栽) 2018年4月30日 宮崎一夫



サルメンエビネ *Calanthe tricarinata* Lindl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。球茎は球状。葉は倒卵状狭長楕円形で長さ 15~25 cm。花期は 5 月。花茎の上半部の総状花序に 7~15 個の花をつける。3 枚の萼片と側花弁は黄緑色。唇弁は紫紅褐色で、3 裂して中裂片に 3 条のとさか状の突起があり、先端はへこむ。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

ブナ帯山地の落葉樹林下やスギ、ヒノキ植林に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、伊豆、東部、中部の記録があるが、その後の確認情報はない。スギ、ヒノキ林の林床に残存しているようである。開花前に採集されるために、自生地で開花株を見ることが困難な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

6. 保護対策

生育の記録がある潜在的な生育地を保全する。情報の公開は慎重に行い、生育地の保護を図りたい。(宮崎一夫)



新潟県 2016年5月21日 宮崎一夫



ホテイラン *Calypso bulbosa* (L.) Oakes var. *speciosa* (Schltr.) Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 6~15 cm。球茎は狭卵形。葉は地表に接して 1 個あり、卵状楕円形で長さ 3~6 cm、顕著な縦皺があり、裏面は紫色。花期は 5 月。花茎の頂に花を 1 個つけて紫紅色。唇弁は袋状で下垂して、長さ 2.5~3.5 cm。距は 2 叉に分かれて脛部から突き出る。

2. 分布

国外では欧州、シベリア、カナダ、北米に、国内では本州 (関東地方、中部地方) に分布する。県内では西部、中部 (南アルプス)、東部に分布する。

3. 生育環境

温帯上部から亜高山帯で針葉樹林下の斜面や谷間に生育する。

4. 生育状況

産地は少なく、株数が激減しており、生育は危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

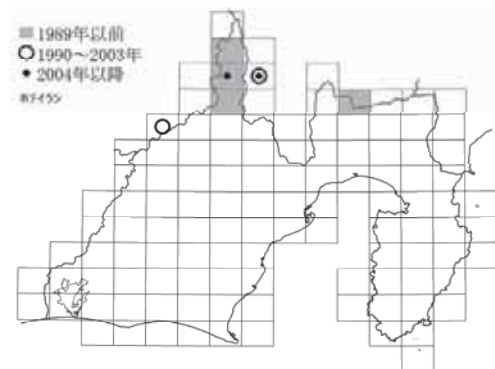
園芸目的の採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

静岡県指定希少野生動植物。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



静岡市 2017年5月19日 宮崎一夫



ウゲヌマラン *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II (VU)]

1. 種の解説

多年草。茎の高さ10~60 cm。稜は目立たない。葉は4~14個で狭長楕円形。長さ8~18 cm。幅2~4 cm、基部は茎を抱く。花期は5~6月。白色の花を10~20個つける。ギンランやササバギンランに似るが、花の距が短いことや、開花時の植物体のざらつきや葉の皺が少なく、葉脈が目立たないことなどで区別できるという。

2. 分布

国外ではユーラシア大陸からアフリカ北部に国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では東部（富士市の沿岸部）に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の落葉広葉樹林や沿岸部のクロマツ林の林床。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に富士市の田子の浦に記録があるが、その後、長らく見つかっていなかった。ところが、2013年に、富士市で大量に発生したのが見つかった。近年、造成地や都市公園などで急速に分布を広げているという。

5. 減少の主要因と脅威

海岸クロマツ林の林床植生の変化（54）が考えられる。

6. 保護対策

落ち葉掻きや除草による海岸クロマツ林の林床管理。

（湯浅保雄）



香川県 2010年5月9日 西口紀雄



カンラン *Cymbidium kanran* Makino

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ25~60 cm。葉は束生して細く幅6~17 mm、中央脈だけがあり鋭尖頭、縁は鋸歯がなくざらつかない。花期は11~1月。萼片は大きく開き長さ3~4 cm。花茎の上部に花を3~15個つけ、径3~5 cmで芳香がある。花色は淡黄緑色、帯紅紫色など変化がある。唇弁は紅紫斑があり外曲する。近似種のシュンランは花が1個で葉の縁に微細な鋸歯があり3葉脈がある。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（東海地方以西）、四国、九州、琉球列島に分布する。県内では中部、西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵から山地の斜面中部から上部の常緑樹林下に生育する。

4. 生育状況

2000年以降では確認がなく、野生では絶滅した可能性がある。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取（41）が最たる要因である。植林の皆伐（11）も脅威である。

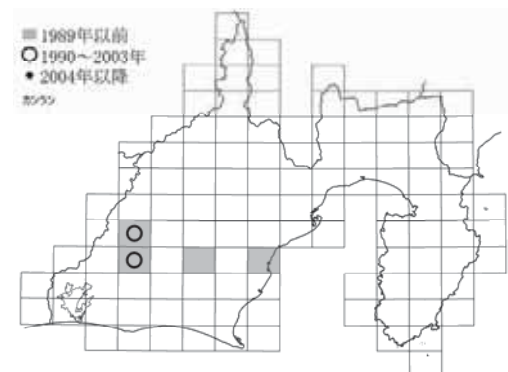
6. 保護対策

生育地の保全と園芸採取を防ぐために、産地情報の公開は重要な配慮が必要である。

（宮崎一夫）



©フォトライブラリ



キバナアツモリソウ *Cypripedium yatabeanum* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。葉は互生であるが、接近して 2 枚に向かい合っつき、長さ 10~15 cm、幅 4~10 cm。茎や子房とともに腺毛がはえる。花期は 6~7 月、細長い花茎の先に、横向きに 1 個の花をつける。花は径 3 cm。袋状の唇弁は広く開口し、側花弁とともに茶褐色の斑点がある。

2. 分布

国外ではカムチャツカ半島、アリューシャン列島からアラスカに、国内では北海道、本州（東北地方南部~中部地方）に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から冷温帯の落葉樹林内と草原に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に富士山と南アルプスの記録はあるが、前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の減少 (16) と園芸採取 (41) が減少の主要因であり、シカによる食害 (52-1) も脅威である。

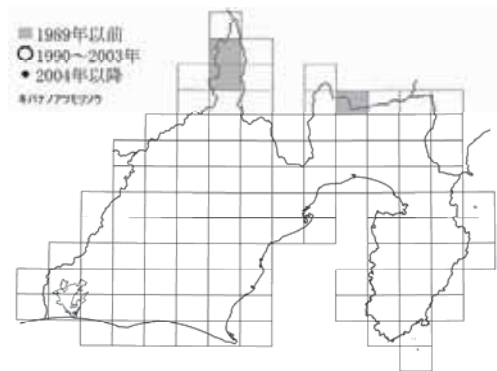
6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。生育地の確認が必要である。

(湯浅保雄)



©2020 K. Miyazaki
山梨県 1994 年 7 月 17 日 宮崎一夫



ホテアツモリソウ *Cypripedium macranthos* Sw. var. *macranthos*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。葉は長さ 10 cm、幅 6 cm ほどで茎を抱く。花期は 5~7 月。茎の先端に 1 個の花をつける。背萼片は広卵形で長さ 5~7 cm。唇弁は長さ約 4 cm、幅約 3.5 cm、正面から見ると横長の袋状である。

2. 分布

国外ではロシア沿海州、中国東北部に、国内では北海道、本州（中部）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

亜高山~高山帯下部の草原や林内に生育する。

4. 生育状況

南アルプスに局所的にかなり生育していたが、前回 (2004 年) 調査時も今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) とシカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

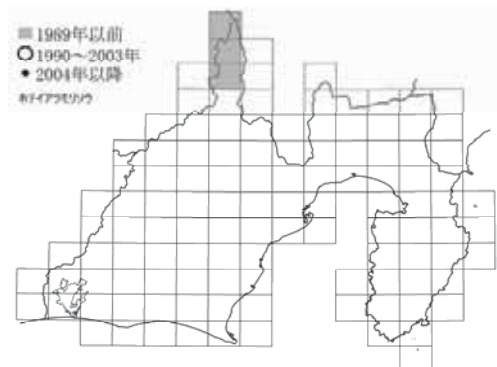
6. 保護対策

種の保存法に基づく「特定第一種国内希少野生動植物種」及び「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。シカによる食害を防ぐこと。

(湯浅保雄)



©2020 J. Otomo
静岡県 1981 年 7 月 18 日 大友二郎



アツモリソウ *Cypripedium macranthos* Sw. var. *speciosum* (Rolfe) Koidz.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~40 cm。葉は互生し、長さ8~20 cm、幅5~8 cmの長楕円形。茎とともに有毛。花期は5~7月。茎頂に径3~5 cmの淡紅~紅紫色の花を1個つける。背萼片は卵形で長さ4~5 cm、側萼片は合着し、背萼片より少し短い。側花弁2個は卵状披針形。唇弁は大きな袋状で、内部に長毛を散生する。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、アジア北東部からヨーロッパ東部に、国内では南千島、北海道、本州（近畿地方以北）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

亜寒帯から冷温帯の草原や疎林内。

4. 生育状況

過去には富士山とその周辺に多く生育していたが、前回（2004年）調査でも今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

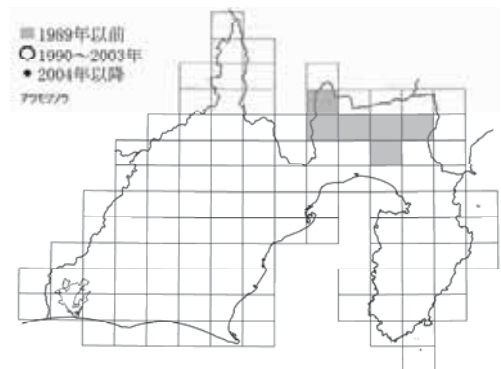
園芸採取（41）と草原の消失（16）が減少の主要因である。

6. 保護対策

種の保存法による「特定第一種国内希少野生動植物種」、
「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。生育地が確認されたら、生育環境の保全を行うこと。また、園芸採取を防ぐために産地情報の公開は慎重に行うこと。（湯浅保雄）



山梨県 2008年6月16日 宮崎一夫



サワラン *Eleorchis japonica* (A. Gray) F. Maek.

(=アサヒラン)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード2,3,6

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。基部に卵状の偽球茎がある。葉は1個、広線形で直立し、長さ5~13 cm、幅2~5 cm。縦の脈が目立つ。花期は7月。茎頂にふつう1個の紅紫色の花をつける。花は斜め横を向いて咲く。花被片は唇弁以外ほぼ同形で平開しない。長さ2~2.5 cm。

2. 分布

日本固有種で、南千島、北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよいミズゴケの生える湿地。

4. 生育状況

数年前に伊豆半島から最後の1個体が消えた。その後、県内での生育確認はない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発（15）と園芸用採取（41）が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育が確認された場合は、最適な生育環境を造成、保全し、さらに園芸用採取を防ぐこと。

(湯浅保雄)



愛知県 1994年6月26日 宮崎一夫



ムカゴトンボ *Peristylus flagellifer* (Makino) Ohwi ex K. Y. Lang

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~50 cm。葉は茎の下方に 3~5 枚つけ、長さ 4~10 cm、幅 1~2.5 cm の披針形。花期は 9~10 月。径 5~6 mm の淡黄緑色の花を多くつける。唇弁は長さ約 4 mm、基部近くで 3 裂し中裂片は舌状。距は紡錘状、長さ 3~4 mm で先端は切形か 2 浅裂する。

2. 分布

国外では東アジア、インドシナ、東ヒマラヤに、国内では本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球（徳之島以北）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から亜熱帯の日当たりのよい湿った草地や法面。

4. 生育状況

旧浜北市に記録があるが、前回（2004 年）調査や今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発（15）や植生遷移（54）による生育環境の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、最適な生育環境を維持すること。
(湯浅保雄)



©2020 photolibary
©フォトライブラリ



クモイジガバチ *Liparis truncata* F. Maek. ex T. Hashim.

(=ウメガシマジガバチソウ)

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③⑤) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 5~8 cm。花期は 6~7 月。茎頂に 4~10 個の紅紫色から紅褐色の花をつける。唇弁は横に広がり先端が下に巻き込み、紅紫色の脈がある。唇弁基部の肉状突起はほぼ三角形をしている。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東、中部）に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯の落葉樹の樹幹に着生する。

4. 生育状況

過去に 2ヶ所で確認されているが、前回（2004 年）調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採（11）や枯死（54）などによる、着生できる大径木の減少が減少の主要因であるが、園芸採取（41）の影響も指摘されている。

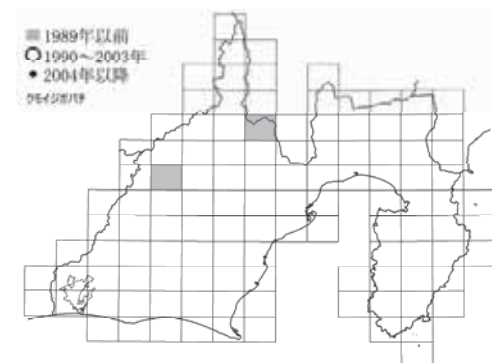
6. 保護対策

産地が確認された場合は、園芸採取を防ぐため、情報の公開は慎重に行うべきである。

(湯浅保雄)



©2020 T.Sugino
浜松市 1977年5月14日 杉野孝雄



ムカゴサイシン *Nervilia nipponica* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ7~10 cm。地下に径7 mm 位の球茎がある。葉は花期になく、秋に五角状円心形で長さ3~5 cmの葉を出す。花期は5~6月。花茎は膜質の鞘状葉を2~3個つけ、頂に1花をつける。花は紫褐色で横向きに斜開して距はない。萼片と側花弁及び唇弁はほぼ同長で長さ1 cm。唇弁は白色でくびれるように3浅裂し、中裂片は倒卵形で紅紫色の斑点と乳頭状の毛束がある。近似種のムカゴサイシンモドキは九州以南に分布し、唇弁に乳頭状の毛束がない。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖地の海に近い丘陵地の常緑樹林下で、湿り気のある腐植地に生育する。生育に適した環境は多くある。

4. 生育状況

産地、産量は少ない。近年は新産地が確認されている。矮小のためまだ確認されていない産地があると思慮される。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)と土地造成(23)が主要因である。植生遷移(54)も脅威である。

6. 保護対策

分布調査は、花期だけでなく葉が出現している時季にも行うことが重要である。(宮崎一夫)



浜松市北区 2008年5月24日 宮崎一夫



ガンゼキラン *Phaius flavus* (Blume) Lindl.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~60 cm。偽球茎は卵状狭円錐形で稜がある。葉は常緑で3~5枚あり、広倒披針形で長さ20~40 cm。花期は6月。花茎は側生し、花は黄色。萼片と側花弁はやや厚く狭長楕円形で長さ3~3.5 cm。唇弁は楔状倒卵形で先端の縁に襞がある。距は披針形で長さ7~8 mm、後方に突出する。遠目ではキエビネに見える。

2. 分布

国外では東南アジアからインドに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は北限自生地である。

3. 生育環境

常緑樹林下で湿り気のある岩場に生育する。

4. 生育状況

10株以下の株数である。1964年に県内の分布が確認された。2000年以降は生育が不明である。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的による採取(41)が最たる脅威である。

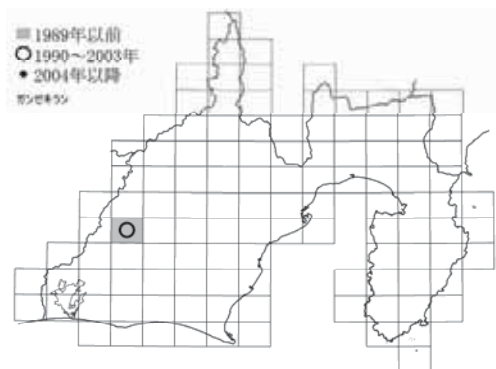
6. 保護対策

再確認された場合は行政による生育地の保護管理が望まれる。産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。

(宮崎一夫)



浜松市 1995年6月19日 宮崎一夫



ナゴラン *Sedirea japonica* (Lindenb. et Rchb. f.) Garay et H. R. Sweet

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

樹木に着生する多年草。高さ3~5 cm。葉は肉質の狭長楕円形で長さ8~15 cm、2~6葉が2列につく。花期は6~8月。花茎は側生して長さ5~15 cm、3~10個の花を総状につける。花は淡緑白色で径2~3 cm、微香がある。萼片は長楕円形、唇弁は萼片と同長で紅紫色の斑点があり3裂し、側裂片は小さく、中裂片は倒卵形で、縁は波状の細かい欠刻がある。近似種のマツランは葉が2列生し長さ1~2 cm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州(静岡県以西)、四国、九州、伊豆諸島、琉球に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯から亜熱帯の常緑広葉樹林内の樹幹に着生する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に中部の記録がある。産地は局所的で産量はきわめて少ない。前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認されていない。近年の生育状況は不明である。

5. 減少の主要因と脅威

産地に限られる(61)。園芸採取(41)が主要因で、森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

きわめて個体数が少ない種であるから、生育地の保護と園芸採取を防ぐために、産地情報の公表には慎重な配慮が必要である。(宮崎一夫)



奈良県 2005年6月17日 宮崎一夫



エゾイトイ *Juncus potaninii* Buchenau

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

イグサ科 Juncaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。植物体は軟弱で崖から垂れ下がる。茎は高さ5~15 cm、茎葉はふつう1個、糸状、茎の基部の葉は1~2個ある。白色小型の葉耳がある。花期は7~9月。頭花は1~2個つき、1~2花からなる。イトイに似るが、花被片は幅広く狭披針形、花糸は花被片よりやや短い。雄蕊は花被片より長く、種子は長さ約1 mm。日本産種はイトイの小型のものとの考えがあり、今後の研究が必要とされている。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯のやや湿った岩上に生育する。

4. 生育状況

南アルプスの塩見岳などに記録がある。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

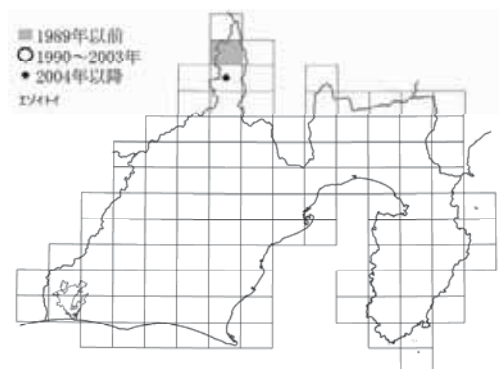
生育環境の変化による植生の遷移(54)、生育地の局所化(61)があげられる。

6. 保護対策

生育地が確認された場合には、生育環境に変動を与えないような対策が必要である。(齊藤 猛)



静岡市 2019年8月11日 加藤 徹



カラフトイワスゲ *Carex rupestris* Bellardi ex All.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。根茎は横に這う。茎は硬く、直立し、高さ10~15 cm。稜は鋭く、上方がざらつく。葉は幅1.5~3 mm、小穂は1個、長さ1~2 cm、幅2~3 mm、披針形で、上方に雄花部をつけ直立し、暗赤褐色を帯びる。果期は7~8月。果胞は倒卵形で、長さ3~4 mm、嘴は短く、柱頭は3岐。

2. 分布

国外ではサハリン、朝鮮半島北部からヨーロッパ及び北アメリカに、国内では北海道、本州中部に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩の隙間、岩礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈に記録がある。近年生育が確認されていない。

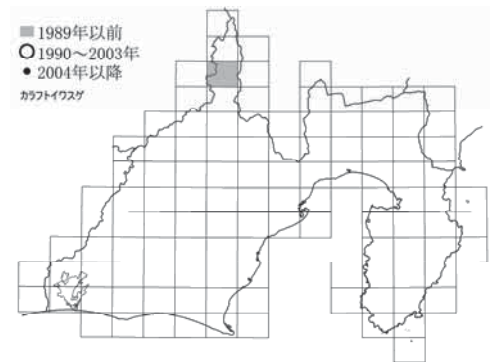
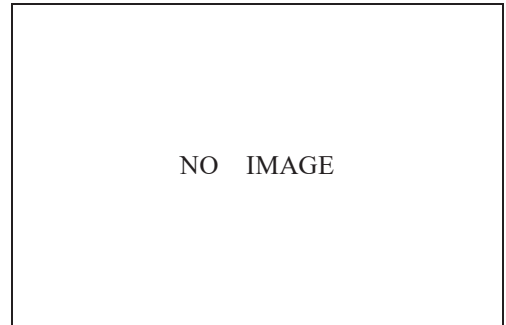
5. 減少の主要因と脅威

生育環境の変化による植生の遷移(54)、登山者の踏みつけ(51)、生育地の局所化(61)があげられる。

6. 保護対策

生育地が確認された場合には、生育環境に変動を与えないような対策が必要である。

(斉藤 猛)



イッスンテンツキ *Fimbristylis kadzusana* Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

一年草。高さ5~15 cm。葉はやや短く、幅は1 mmほど。花序は1~3個の小穂をつけ、小穂は長楕円形で光沢がなく、褐色で長さ5~8 mm。鱗片は薄膜質で凹頭。縁に少し毛がある。果期は9~10月。果実はレンズ状広倒卵形で長さ約1 mm。黒褐色。柱頭は2岐。

2. 分布

日本固有種で、本州(千葉県、東海地方)に分布する。県内では西部に分布し、浜松市三方原と湖西市梅田に記録がある。

3. 生育環境

海岸近くの低地の湿地。

4. 生育状況

過去には記録はあるが、前回(2004年)調査でも今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地開発、土地造成による生育地の消失(15、23)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、その湿地を保全すること。

(湯浅保雄)



愛知県 1976年9月5日 内藤宇佐彦



ヤリテンツキ *Fimbristylis ovata* (Burm. f.) Kern

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード1

カヤツリグサ科 Cyperaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~40 cm。根茎は短縮して葉と茎を叢生する。茎は細い針金状、葉は線形で幅 0.5~1 mm、茎より短い。小穂は茎の先端にふつう 1 個つける。やや扁平で長さ 8~15 mm、幅 4~6 mm。鱗片はふつう左右 2 列に並び、淡いわら色で竜骨がある。果実は秋に熟し、淡白色で広卵形。長さ 2.5~3 mm。類似のヤマイでは、小穂の鱗片はらせん状につく。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島、台湾、インド、インドネシア、アフリカ、オーストラリアに、国内では本州（千葉県、神奈川県、静岡県、和歌山県）、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海に近いところや海岸の芝地。

4. 生育状況

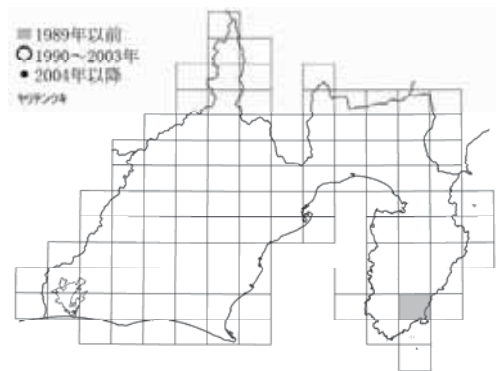
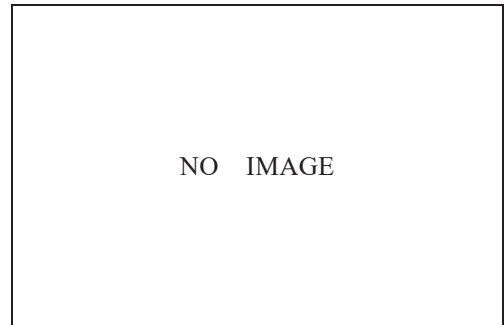
静岡県植物誌 (1984) には下田市の白浜海岸の記録が載っているが、その後の確認の情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発整備 (14) と植生遷移 (54) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地が確認された場合は、生育環境に配慮した保護対策が必要である。
(湯浅保雄)



ヤマオオウシノケグサ *Festuca hondoensis* (Ohwi) Ohwi

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~50 cm。オオウシノケグサに似ており、葉は線形で、幅 1~2 mm で束生する。花期は 7~8 月、護穎はすみれ色を帯び、芒がない。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州（至仏山、長野県、白山三ノ峰など）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩場、岩礫地、砂礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈（三伏峠、荒川岳、千枚岳、大沢岳、兎岳、聖平）に生育するが個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54) などがあげられる。

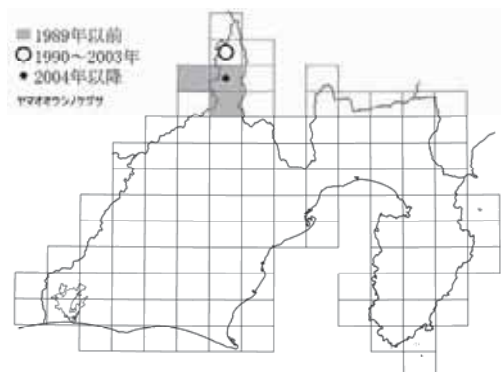
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(齊藤 猛)



静岡市 2019年7月30日 室伏幸一



キタダケイチゴツナギ *Poa glauca* Vahl var. *kitadakensis* (Ohwi) Ohwi

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70 cm。タカネタチイチゴツナギの変種で、花序の枝がやや長く、苞穎は大きくて長さ 4~5 mm、護穎は 4~4.5 mm になる。花期は 7~8 月。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (中部) に分布する。県内では南アルプス高山帯に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩場、岩礫地に生育する。

4. 生育状況

赤石山脈に記録がある (間ノ岳、塩見岳、荒川岳、蝙蝠岳、東岳、赤石岳)。産地は限られていて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

登山者の踏みつけ (51)、シカ食害 (52-1)、生育環境の変化による植生の遷移 (54)、生育地の局所化 (61) などがあげられる。

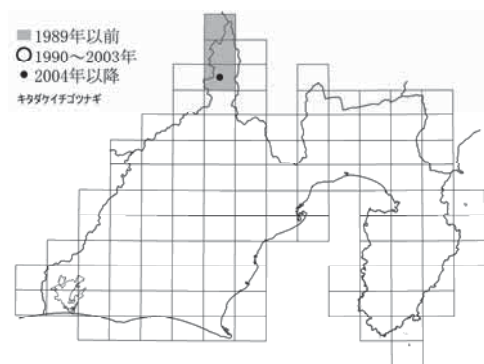
6. 保護対策

シカ食害の影響が大きく、生育地を含む高山稜線にはシカ対策が必要である。

(齊藤 猛)



静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



ベニバナヤマシャクヤク *Paeonia obovata* Maxim.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更コード 6

ボタン科 Paeoniaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~60 cm。茎は無毛で基部に鞘状の鱗片がある。葉は 2 回 3 出複葉、頂小葉の先は尖形または鈍形。花期は 4~5 月。花は茎頂に 1 個で径 5~10 cm、葉よりも長く抜き出て、全形が縦長である。花冠は淡紅色、時に白色である。雌蕊は 3~5 個。柱頭は強く外曲する。袋果は湾曲する。近似種のヤマシャクヤクは頂小葉の先が漸尖形で雌蕊は 2~3 個。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、サハリンに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部、東部に分布する。

3. 生育環境

低山や丘陵地の草地や落葉樹林下が本来の生育環境であるが、今ではほとんどがスギ植林下の砂礫地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、各地に点在していた記録があるが激減している。時に 3 葉だけの小苗が見られる程度で野生状態の開花を見られる機会は、ほとんどなくなった。

5. 減少の主要因と脅威

園芸目的の採取 (41) が主要因である。植林による被陰 (71) も脅威である。

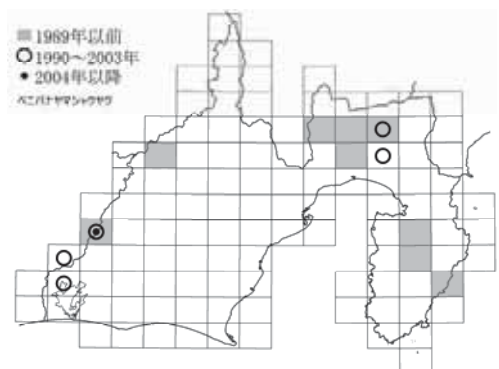
6. 保護対策

きわめて個体数の少ない稀産種となり、公的な体制の下に生育地の保護管理が望まれる。

(宮崎一夫)



浜松市 2015年5月16日 内藤宇佐彦



トキホコリ *Elatostema densiflorum* Franch. et Sav. ex Maxim.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード9

イラクサ科 Urticaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。茎は高さ 10~25 cm で開出毛がある。葉は長楕円形で左右不同で長さ 3~6 cm。上半分に鋸歯がある。乾くと緑黒色となる。花期は 9~10 月。雌雄同株。葉腋に多数の雄花と雌花を混生する。雄花には 4 枚の花被、4 本の雄蕊があり、雌花には 3~5 枚の花被がある。類似のヤマトキホコリは多年草で、茎にはほとんど毛がなく、また、葉は乾くと黄緑色となる。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州 (中部) に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の湿った畑や道ばたに生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、富士宮市の記録があるが、前回 (2004 年) 調査でも今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化 (71) が減少の主要因と考えられる。

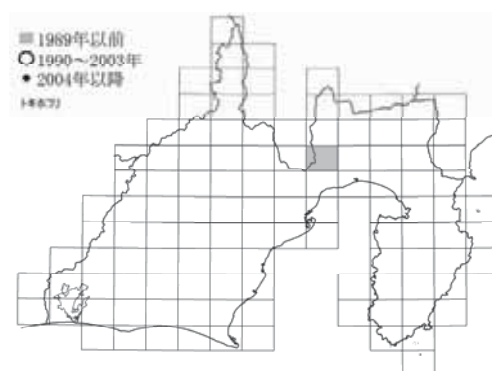
6. 保護対策

生育が確認された場合は、生育環境の保全が必要である。

(湯浅保雄)



神奈川県 2019年10月20日 室伏幸一



タチスズシロソウ *Arabidopsis kamchatica* (DC.) K. Shimizu et Kudoh

subsp. *kawasakiana* (Makino) K. Shimizu et Kudoh

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 1, 5, 18

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I 絶類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B (EN)]

1. 種の解説

越年草。高さ 15~40 cm。茎は葉とともに緑白色で無毛。根出葉には両面に毛がある。花期は 4~5 月。花弁は白色で長さ 4~8 mm。長角果は線形、長さ 2~4 cm。種子は平たく楕円形、長さ 1~1.5 mm で翼はない。基本亜種のミヤマハタザオは多年草で、種子の先端に狭い翼がある。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では本州 (東海地方、近畿地方)、四国 (高知県) に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

海岸や湖岸の砂地、あるいは海岸のクロマツ林内。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) によれば 1920 年代に静岡市の三保海岸や大里海岸に生育していたという。しかし、その後の確認情報はなく、また前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

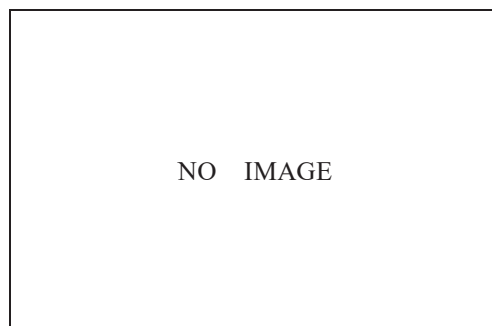
5. 減少の主要因と脅威

海岸の開発 (14) と砂浜の減少 (71)、クロマツ防風林の下層植生の繁茂 (54) が減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

海岸砂地の保全とクロマツ林内の落ち葉掻きによる下層植生の抑制。

(湯浅保雄)



ハナハタザオ *Dontostemon dentatus* (Bunge) Ledeb.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IA (CR)]

1. 種の解説

越年草。高さ15~60 cm。茎は上部で多く分枝する。葉は線状披針形、両端は細くなり全縁、または鋭鋸歯縁。両面有毛。長さ2~7 cm、幅2~10 mm。花期は6~9月。花弁は紅紫色。長さ6~9 mm。長角果は直立またはやや斜上し、線形、長さ2~6 cm。種子は褐色で卵形、縁に狭い翼がある。

2. 分布

国外ではシベリア東部、中国北部、朝鮮半島に、国内では本州（東北地方南部~中部地方の太平洋側）、九州（熊本県）に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

山地あるいは海岸地域の日当たりのよい草原に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に、県東部の三国山地や富士山東麓に生育していた記録はあるが、前回（2004年）調査時も今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

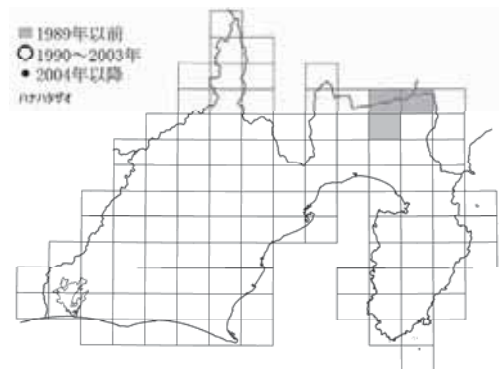
草原の管理放棄による植生遷移（53）が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

草原の火入れと夏期の刈り取りにより、ススキの繁茂を抑えながら維持すること。
(湯浅保雄)



山梨県 2019年7月2日 宮崎一夫



キタダケナズナ *Draba kitadakensis* Koidz.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件①②) 変更なし

アブラナ科 Brassicaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 IB類 (EN)]

1. 種の解説

多年生。高さ10 cm前後。茎は叢生し、葉とともに星状毛を密生する。根出葉は6~12 mm、幅1.5~3 mm、無柄。茎葉は3~5 mm。花期は6~8月。花は10個ほどの花が穂状花序に密生し、白色で径約4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（八ヶ岳、南アルプス）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩礫地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に南アルプス悪沢岳の記録があるが、前回（2004年）調査、今回の調査でも確認できていない。

5. 減少の主要因と脅威

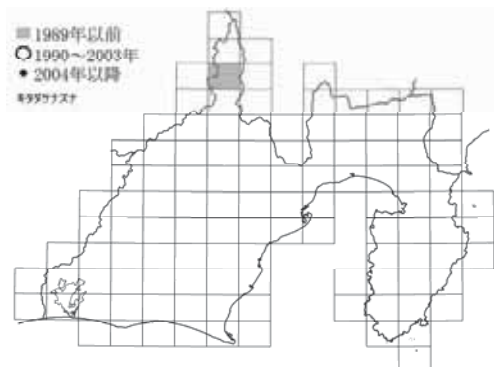
生育地の崩壊（55）などが考えられるが不明である（99）。

6. 保護対策

生育が確認されたら、踏みつけなどを防ぐため、登山者の立ち入りを制限すること。
(湯浅保雄)



山梨県 2007年7月1日 宮崎一夫



タカネマンテマ *Silene uralensis* (Rupr.) Bocquet

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更コード 1, 18 ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IB類 (EN) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ5~20 cm。茎は単一で直立し、軟毛が多い。葉は倒披針形で長さ3~10 cm、鋭頭で基部は細まりほぼ無柄。花期は7~8月。花は茎頂に1個つき、始めは斜め下向に開き、徐々に上を向き、真上を向いて枯れて立つ。萼筒は長楕円形、黒色の毛が生えた10脈が隆起する。花弁は長さ2~3 mm、淡紅色から白色。

2. 分布

国外ではロシア(北クリール、カムチャツカ、シベリア)、ヨーロッパに、国内では本州中部(南アルプス)に、県内では中部に分布する。

3. 生育環境

高山帯の岩塊上や岩礫地の疎草地に生育する。風衝地や日照時間の短い環境下で確認されることが比較的多い。

4. 生育状況

かつては、南アルプスの数箇所を確認されたが、現在はそのうち一部限られた箇所でのみ確認される。総株数はきわめて少なく存続は危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

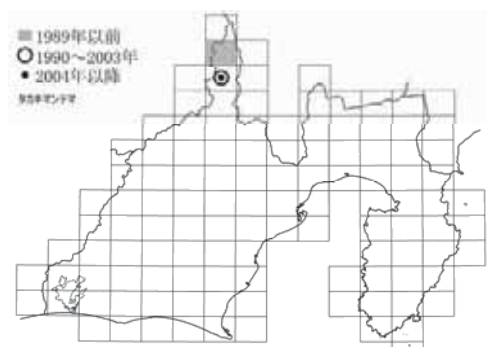
産地はきわめて限定し(61)、人の踏みつけ(51)や盗掘(41)に加えて、シカの食害(52-1)や踏み荒らしのほか、植生遷移(54)や岩塊の崩壊(55)も脅威である。

6. 保護対策

「静岡県指定希少野生動植物」に指定されている。本県の個体は、環境省新宿御苑内に種子及び発芽個体が保存され、保護増殖が図られている。(山崎由晴・宮崎一夫)



静岡市 2003年7月20日 宮崎一夫



カンチャチハコベ *Stellaria calycantha* (Ledeb.) Bong.

静岡県カテゴリ 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

ナデシコ科 Caryophyllaceae

[2004年版カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 IA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~40 cm。茎は叢生し、葉は狭長楕円形、長さ10~22 mm、縁に毛がある。花期は7~8月。花はまばらの集散花序につく。萼片は4~5個、披針形で長さ2.5 mm。花弁はないか、あっても萼片の1/2の長さ。花弁は白色で2深裂。蒴果は円錐状卵形。種子には突起はない。

2. 分布

国外では北半球北部に、国内では北海道、本州(中部地方)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の湿地や岩の間。

4. 生育状況

南アルプスに生育するが産地は限られていて個体数は少ない。

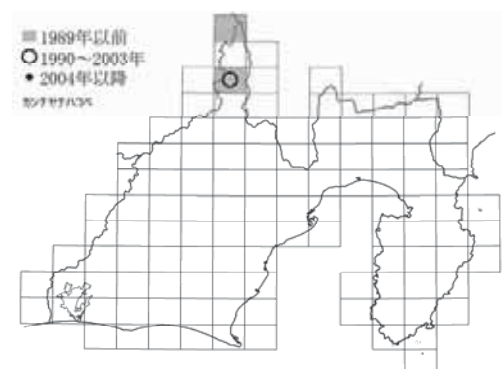
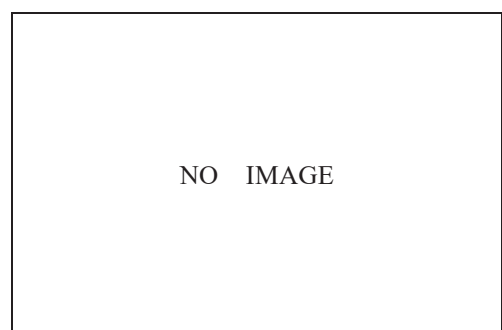
5. 減少の主要因と脅威

産地が限られる(61)。植生遷移(54)や登山者による踏みつけ(51)が減少の主要因である。

6. 保護対策

踏みつけの影響を避けるため、登山道以外に立ち入らないような対策が必要である。

(湯浅保雄)



ミヤマハナシノブ *Polemonium caeruleum* L. subsp. *yezoense* (Miyabe et Kudô)
H. Hara var. *nipponicum* (Kitam.) Koji Ito

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件) 変更コード9

ハナシノブ科 Polemoniaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年生。高さ 80 cm 程度。茎には稜があり、葉は奇数羽状複葉で小葉は 21 枚ほどで全縁である。長さは約 5 cm。花期は 6~8 月。茎の上部の散房花序に淡青紫色の花をつける。花冠は 5 深裂し、長さ約 2.5 cm。花柄には短腺毛が密生し、白毛がまばらに生える。種内分類群としての認識には更なる検討が必要との見解もある。

2. 分布

日本固有変種で、本州に分布する。県内では中部 (南アルプス) に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯から高山帯の草原や林縁に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に、南アルプスの北荒川岳の記録があるが、前回 (2004 年) 調査、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

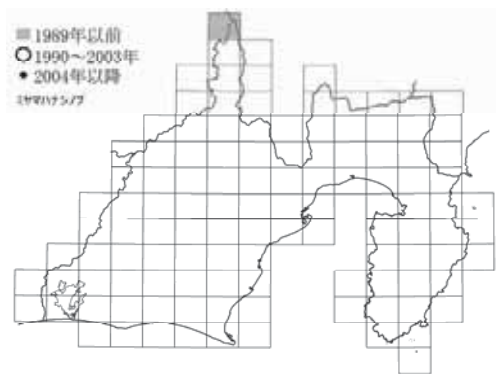
生育地の環境変化 (71) が減少の主要因と考えられる。これからはシカによる食害 (52-1) が脅威である。

6. 保護対策

シカの食害対策が必要である。 (湯浅保雄)



山梨県 1997年7月19日 宮崎一夫



ムラサキツリガネツツジ *Rhododendron lasiophyllum* (Nakai) Yonek. var. *lasiophyllum*

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ 0.5~1 m。葉は長楕円形で長さ 2~4 cm。表面に粗い長毛が密に生える。花期は 5~6 月、2~6 個の壺型の花を枝先から下垂する。花の長さは 1~2 cm。花柄には長毛が密生する。花冠は長さ 14~18 mm。ふつう全体が濃紅紫色である。類似のウラジロヨウラクの葉の表面は無毛か、または長毛が少しある。花冠は紅紫色である。

2. 分布

日本固有変種で、神奈川県、山梨県、静岡県に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

冷温帯山地の岩場や風衝草原に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) に、伊豆や富士山、金時山、愛鷹山の記録があるが前回 (2004 年) 調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) が減少の主要因である。

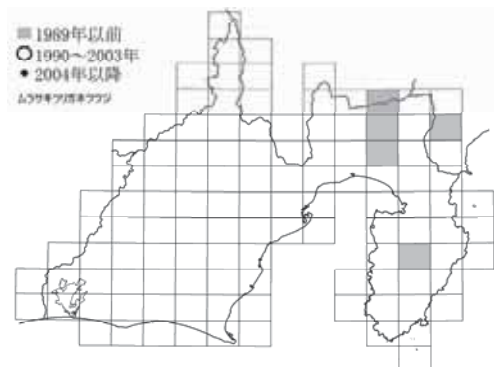
6. 保護対策

盗掘防止と種を指定して保護を図りたい。

(湯浅保雄)



山梨県 2018年6月3日 室伏幸一



ソナレセンブリ *Swertia noguchiana* Hatus.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②③) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草(開花後枯れる)。高さ10~30 mm。葉はソナレムグラに似る。茎はよく分岐し這う。葉は対生、へら形で基部は柄に流れ茎に密着する。葉は厚く、中心の葉脈を境に、裏側に反り返り、表面に光沢がある。花期は10~11月。花は白色で青紫色の筋が放射状に、各花弁に5~8本伸びる。

2. 分布

日本固有種で、伊豆七島と伊豆半島に分布する。県内では伊豆半島爪木崎に点在する。

3. 生育環境

海岸の風に当たる斜面に生える。

4. 生育状況

下田市にのみ見られる。裸地を好むが、少ない水分と、他の植物との被覆率との微妙なバランスに影響される。

5. 減少の主要因と脅威

産地に限られる(61)。多肉な葉をもつが、日照り(71)にも影響される。また、岩上の裸地を好むので、釣り人などの踏みつけ(51)にもさらされ、園芸用などの採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

自生地への立ち入り規制が必要である。安易に成株を採取しての移植増殖は不可能であり、慎重な対策が必要である。移植増殖にあたっては、自生株採取前に慎重な検討を行う必要がある。(西口紀雄)



下田市 2010年11月7日 西口紀雄



ムシトリスミレ *Pinguicula vulgaris* L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類(CR) (要件) 変更コード9

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種(N-I 現状不明) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。葉は長楕円形で長さ3~5 cm、幅1~2 cm。根際に4~5枚広げる。表面には腺毛が密生し、粘液を分泌する。花期は7~8月。高さ5~15 cmの花柄を1~3本ほど伸ばし、その先にスミレに似た唇形の花をつける。花冠は紫~淡紫色で、上唇は浅く2裂し、下唇は深く3裂する。蒴果は卵球形で長さ6 mm。

2. 分布

国外では千島列島から北太平洋全域に、国内では北海道、本州(近畿地方以北)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

湿り気のある岩壁や地面または湿地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)の記録以後、確認情報がなかったが、2010年に南アルプスで生育が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の環境変化(71)が減少の主要因であろう。

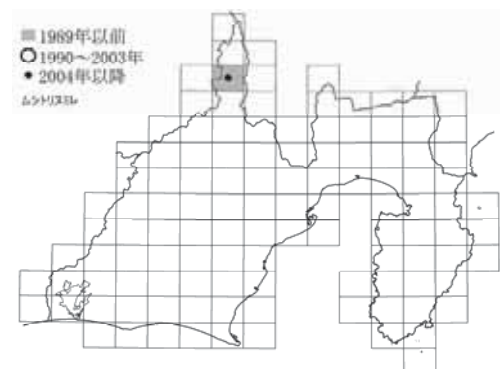
6. 保護対策

盗掘を防ぐため、産地情報の公開は慎重に行うこと。

(湯浅保雄)



静岡市 2010年8月11日 加藤 徹



フサヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

タヌキモ科 Lentibulariaceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。食虫植物。水中の葉は基部で2~5個の小葉に分かれ、長さ3~6 cm。小葉は多数の細裂片に分岐し房のように柔らかい。捕虫嚢は葉の裂片にごく少数しかつけない。花期は8~10月。高さ7~15 cmの花茎に3~10個の花をつけ、花弁は黄~淡黄白色で直径1 cm程度。直径2~3 mmの閉鎖花もつける。

2. 分布

日本固有種で、本州(近畿地方以東)に分布する。県内では東部、中部、西部の低地に分布する。

3. 生育環境

池沼の水中に生育する。

4. 生育状況

各地に記録があるが稀である。近年生育が確認されていない。

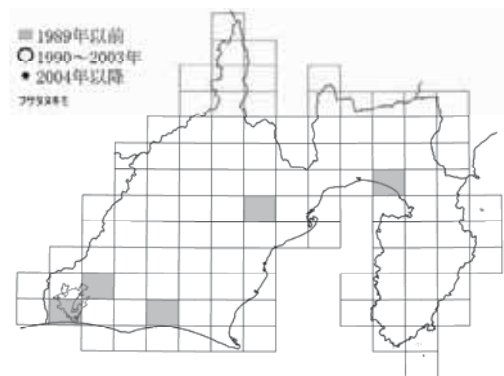
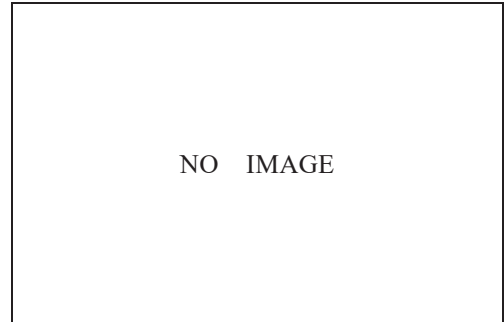
5. 減少の主要因と脅威

池沼の消失(12)や水質の悪化(31)がその要因である。

6. 保護対策

今後の調査で生育が確認された場合は自生地の保全が必要である。

(内藤宇佐彦)



カワラノギク *Aster kantoensis* Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②⑤) 変更コード9

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ50 cm内外。茎は叢生し、上部で分枝し多数の葉をつける。花時には根出葉や下部の葉は枯死している。中部の葉は線形で、長さ6~7 cm、全縁で表面の縁と裏面に短毛を散生する。花期は10~11月。頭花は径3.5~4.0 cmで散房状または円錐状につく。管状花の花冠は長さ6 mmで紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方と静岡県)に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

川岸の日当たりのよい砂礫地。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に沼津市と静岡市の安倍川に生育、と記載されているが、その後確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

砂利採取(13)による生育環境の消失が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地を確認し、生育に適した環境を拡大することが必要である。

(湯浅保雄)



東京都 2008年11月4日 宮崎一夫



ミコシギク *Leucanthemella linearis* (Matsum.) Tzvelev

(=ホソバナセイタカギク)

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更コード 1

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~100 cm。長く地下茎をひき、その先に新苗を作る。茎は叢生する。葉はふつう1~2対に羽裂し、裂片は幅2~3 mm。表面はざらつき、縁は裏側に反曲する。花期は9~10月。頭花は長い柄があって径3~6 cm。花冠は白色。瘦果は著しい10肋がある。

2. 分布

国外では中国、朝鮮半島に、国内では本州、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

日当たりのよい湿地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に湖西市に生育していたものが絶滅したと記されているが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

湿地の開発(15)が減少の主要因である。

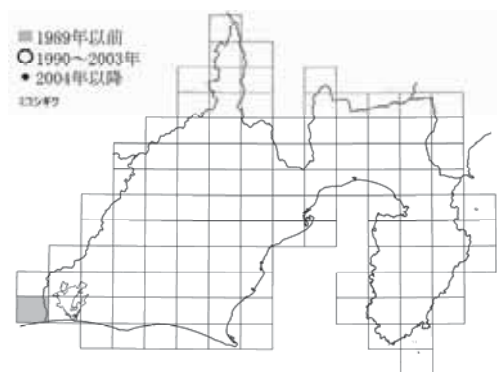
6. 保護対策

生育地が見つかった場合は、生育に適した環境を維持管理すること。

(湯浅保雄)



愛知県 2014年10月5日 宮崎一夫



ヤマタバコ *Ligularia angusta* (Nakai) Kitam.

静岡県カテゴリー 絶滅危惧 A類 (CR) (要件-①②) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I A類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。高さ1~1.5 m。根は太く多数ある。茎はやや太く直立する。根出葉は束生して、葉柄は長さ15~35 cm、葉身は長楕円形で長さ17~30 cm。茎葉はふつう3個が直立する。花期は5~6月。頭花は長い総状花序をなし、花柄の中央に小苞が1個ある。総苞は筒形で長さ6~8 mm。舌状花は3~5個あり黄色。瘦果は長さ4.5~6 mm。近似種のメタカラコウは葉身が三角状鈍形である。

2. 分布

日本固有種で、本州(中部、関東地方)に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の日当たりのよい草地や林縁に生育する。

4. 生育状況

東部と中部で記録がある。産地は局限する。産量もきわめて少なく、存続は危機的な状況である。

5. 減少の主要因と脅威

ササの被陰などの植生遷移(54)が主要因である。マニアによる採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

植生遷移を抑制するためにササ類を除去し、園芸採取を防ぐために立ち入りを禁止することが重要である。

(宮崎一夫)



静岡県 2014年5月13日 西口紀雄

